６．農業振興活動

⑴　地域農業の振興

持続可能な農業の実践に向け、補助事業を積極的に活用しブランド京野菜と地域特産物の生産拡大をはかるとともに、新たにＷＣＳ（発酵粗飼料）用稲の栽培と定着に向け取り組みました。

また、作物に応じた基本技術の励行と、生産から流通までの工程管理を確認するGAPに取り組み、更なる品質の向上につとめました。

有害鳥獣被害対策については、行政機関と連携をはかり補助事業を活用し防除対策に取り組みました。

⑵　多様な担い手の育成・支援

農業法人、集落営農組織など、担い手経営体への対応強化をめざし、事業部門間の連携をはかるため、ＴＡＣ（営農経済渉外係）による相談機能の充実と新たな農業技術の実践と提案活動に取り組みました。

⑶　京都ブランドの強みを活かした生産振興

酒造好適米・酒造用かけ米などの実需者ニーズに応じた用途別の京都米づくりの推進とともに高品質、良食味な京都米、「特Ａ」の産地定着・拡大に取り組みました。

京野菜については、生産者部会を中心に品目別栽培研修会や視察研修会などの部会活動を実施し、栽培技術の高位平準化により安定生産をはかるとともに、より有利な販売体制の確立を目指して新たな京野菜産地の拡大・ブランド化をすすめました。

また、京都府の事業を積極的に活用してパイプハウスの導入をはかり、更なる特産物の生産振興と安定生産・出荷を目指した産地形成につとめました。

豆類については、黒大豆を中心に契約栽培による新規産地の確立と新技術の検証ならびに増収技術の向上による安定生産に取り組みました。

⑷　消費者の信頼に応える食の安全・安心対策

ＧＡＰの普及への取り組みについては、新たに導入する生産者部会に対しては研修会を開催し、導入品目の拡大につとめるとともに、既に取り組んでいる生産者部会へはＧＡＰ点検を実施し、実践による理解を深めました。

また、農薬の適正使用を確認し、農産物の安全・安心を確保するため残留農薬検査を実施しました。

⑸　生産農家と消費者を結ぶ取り組み

地産地消の拠点とする農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、新鮮で安心な農畜産物の供給と今搗き米の対面販売により、「食」と「農」を結ぶ架け橋、消費者との交流の場として地域をはじめ府内外からも多くの方にご利用いただき、年間来店者は34万人を超えました。

⑹　健全な食と農を伝える取り組み

「食」や「農」について学ぶ食農教育に取り組み、次世代を担う子どもたちに農業への理解、郷土への愛着、命の尊さを学ぶ場をつくり、地域の文化や伝統を伝える活動をすすめました。

酪農センターでは牛乳の加工販売事業を行っており、地元の保育園や小学校へ牛乳の供給をつうじて、児童の発育や健康増進に貢献しています。